

■（５２）記者のスタイルも変えたジョブズ氏

出張で訪問した東北地方の通信局で当時、先輩記者が自慢げに見せてくれたのが、アップルの人気パソコン「マッキントッシュ」。まだまだ原稿用紙に鉛筆で書くスタイルが残る時代に、先輩はわざわざパソコンで原稿を書き、プリンターで印刷した「原稿」をファクスで送稿していた。新しもの好きのちょっと変わった記者程度の認識だった。

それから２０年。アップルの前ＣＥＯスティーブ・ジョブズ氏が亡くなった。これほどまで記者の取材スタイルを変えてしまうとは想像できなかった。全記者がノート型パソコンを持ち歩く。世界中からネット経由で原稿を出してくる。ｉＰａｄのようなタブレット端末やｉＰｈｏｎのようなスマートフォンにも配信されるデジタル新聞に動画付きの記事を出稿する。過去記事もスクラップ帳よりパソコンで検索するほうが圧倒的に多い。

これらの機器や仕組みを若い記者は最初から完璧に使いこなす。ただ、変えられないのは情報をつかみとる力。身につけるには、より多くの現場を踏み、より多くの記事を書くしかない。次回から、反省を込めて、自らの新人時代を振り返ってみる（山）